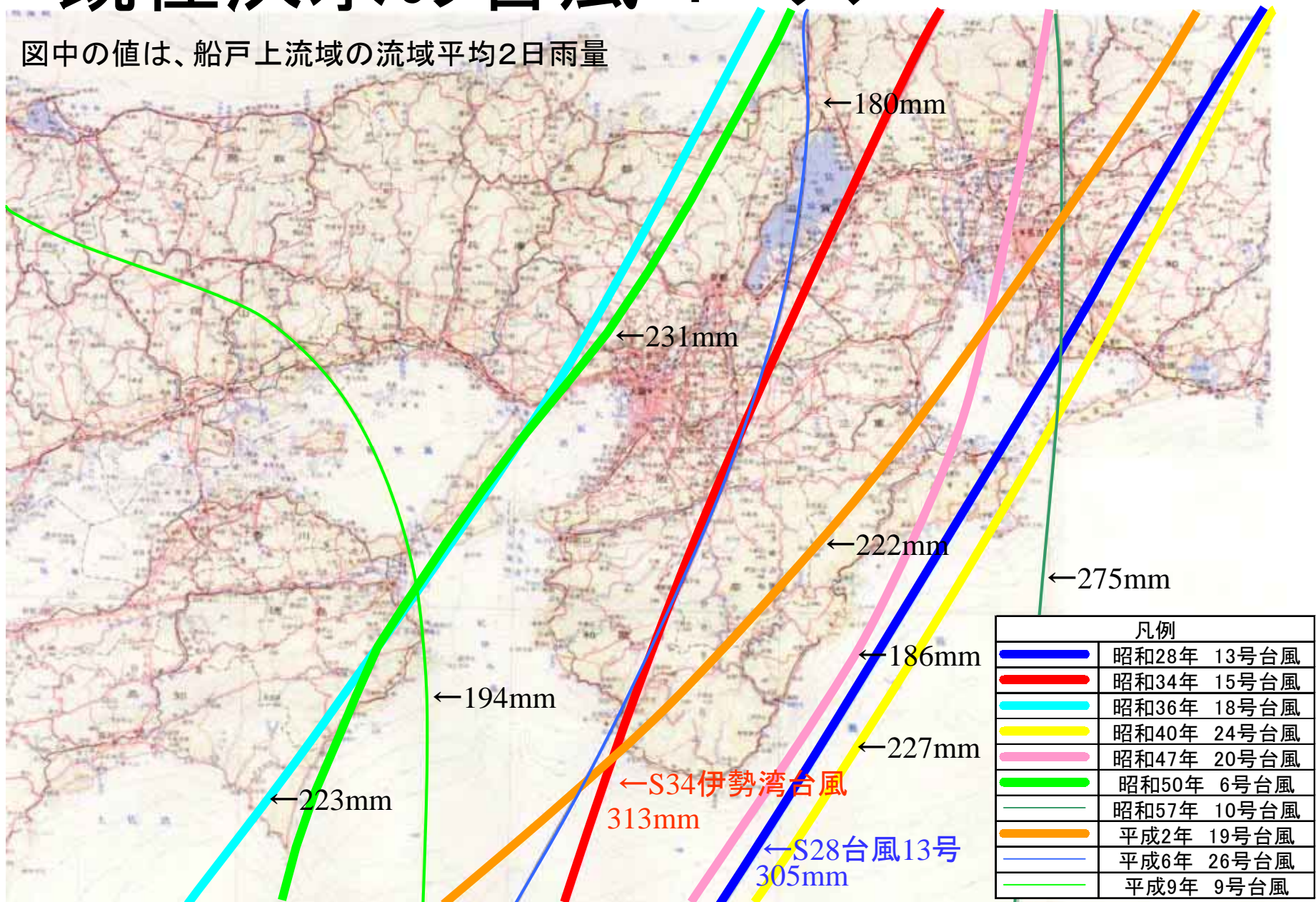


# 発生頻度の高い洪水における 降雨状況

# 既往洪水の台風コース

図中の値は、船戸上流域の流域平均2日雨量



# 等雨量線図(2日雨量)

<昭和28年9月 台風13号>

大台ヶ原で935mmを記録。

中流部の高野山で400mm程度、下流部の砂山でも200mm程度の降雨を記録しました。



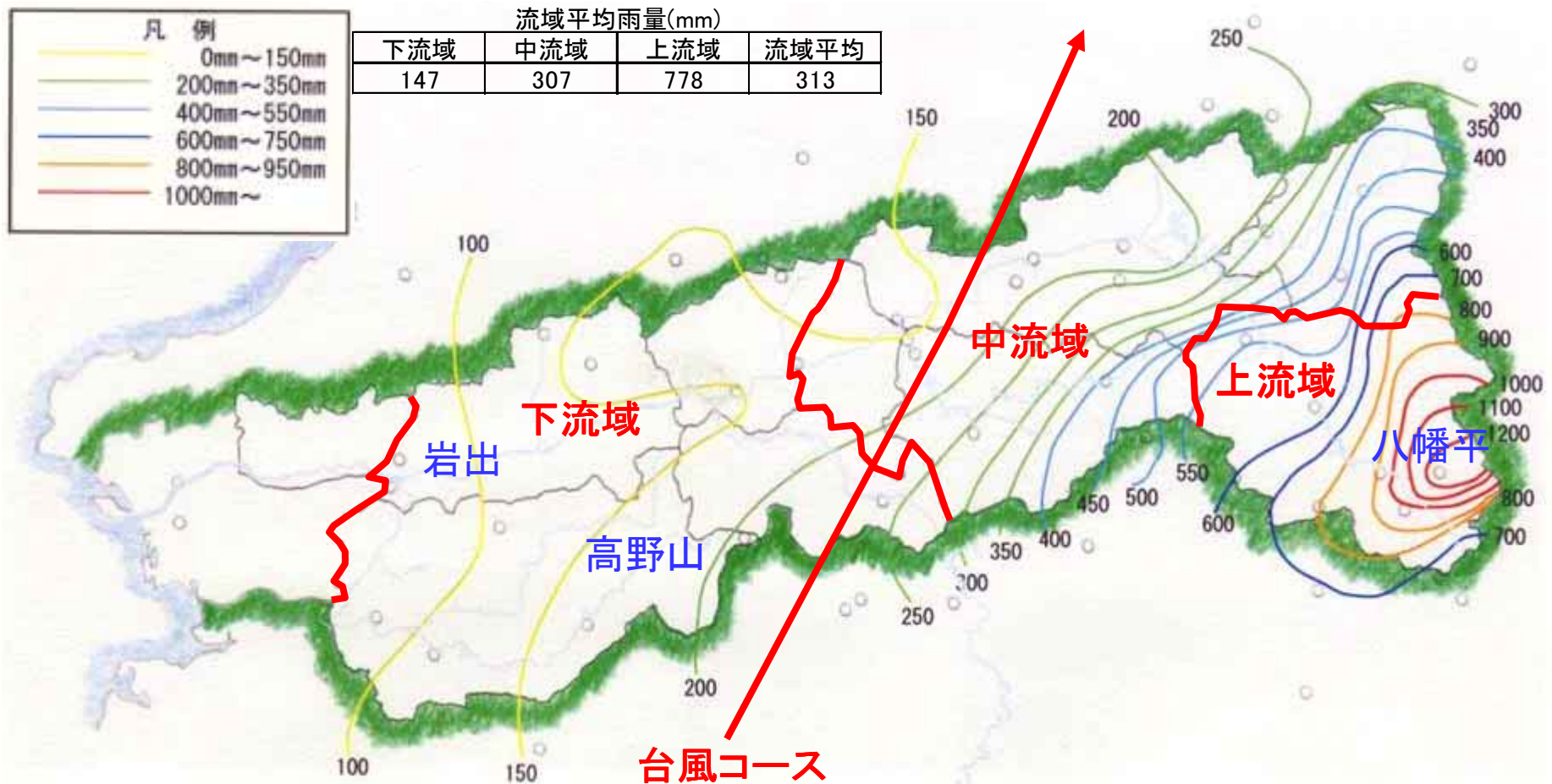


# 等雨量線図(2日雨量)

<昭和34年9月 伊勢湾台風>

極めて上流多雨型の降雨であり、八幡平付近で1,200mmを超える雨量を記録。

上流に比べて中下流部での雨量は少なく、中流部の高野山で200mm程度、下流部の岩出では50mm程度でした。



# 等雨量線図(2日雨量)

＜昭和36年9月 台風18号＞

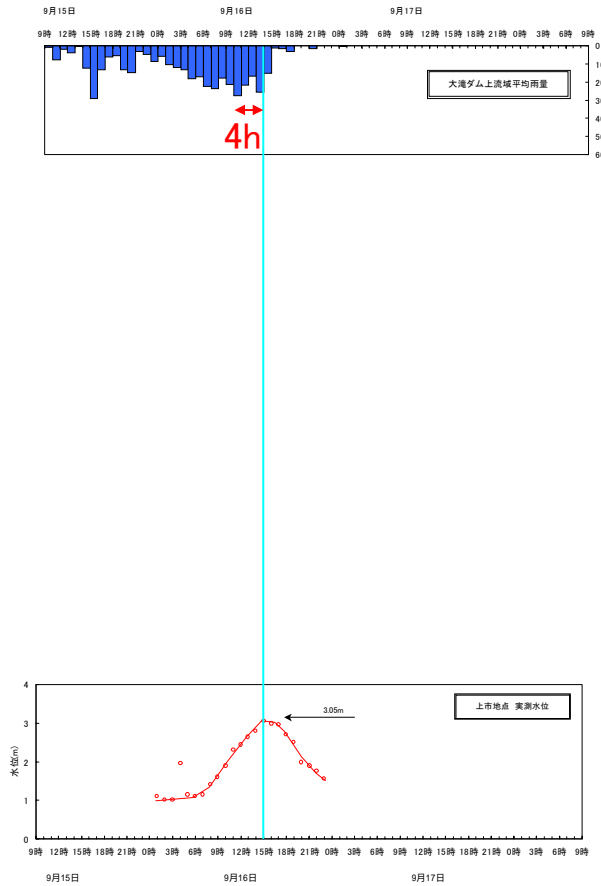
山上ヶ岳付近が最も降雨量が多く550mmを超える雨量を記録。

上流に比べて中下流部での雨量は少なく、中流部の高野山で200mm程度、下流部の岩出では150mm程度でした。

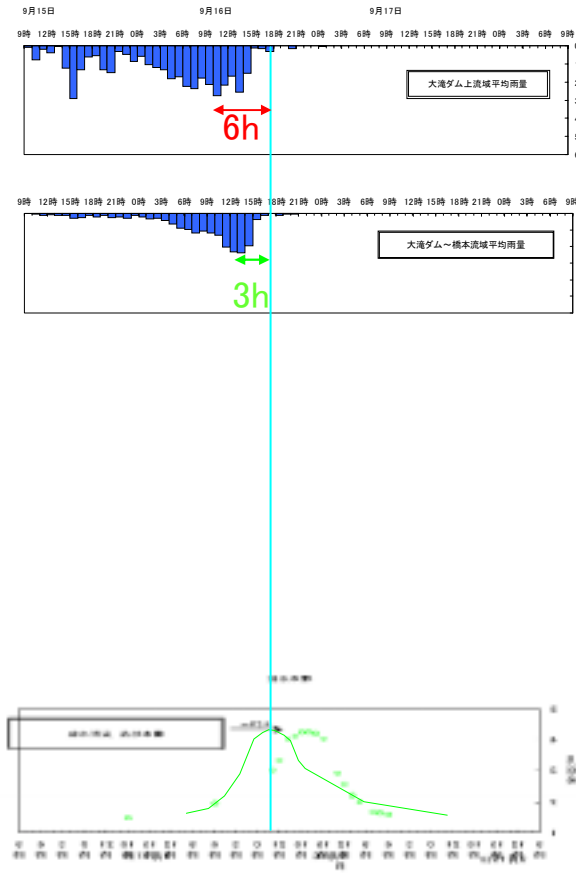


# 昭和36年9月の hidro ハイエトの推移

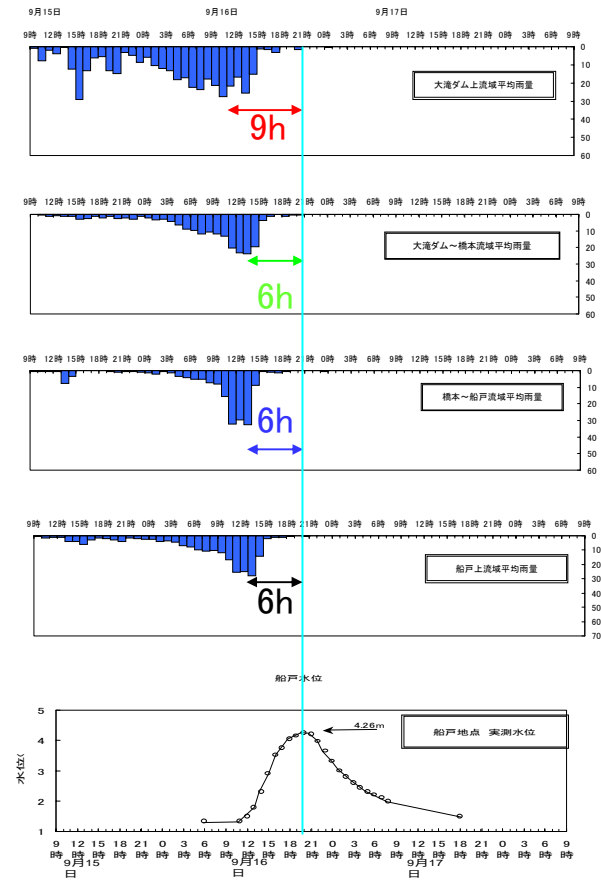
## ▼上流部



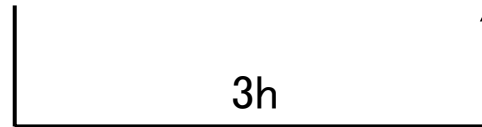
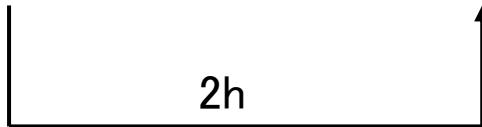
## ▼中流部



## ▼下流部



ピーク水位  
時間差



船戸地点の水位の上昇は、中下流の雨による影響と考えられます。

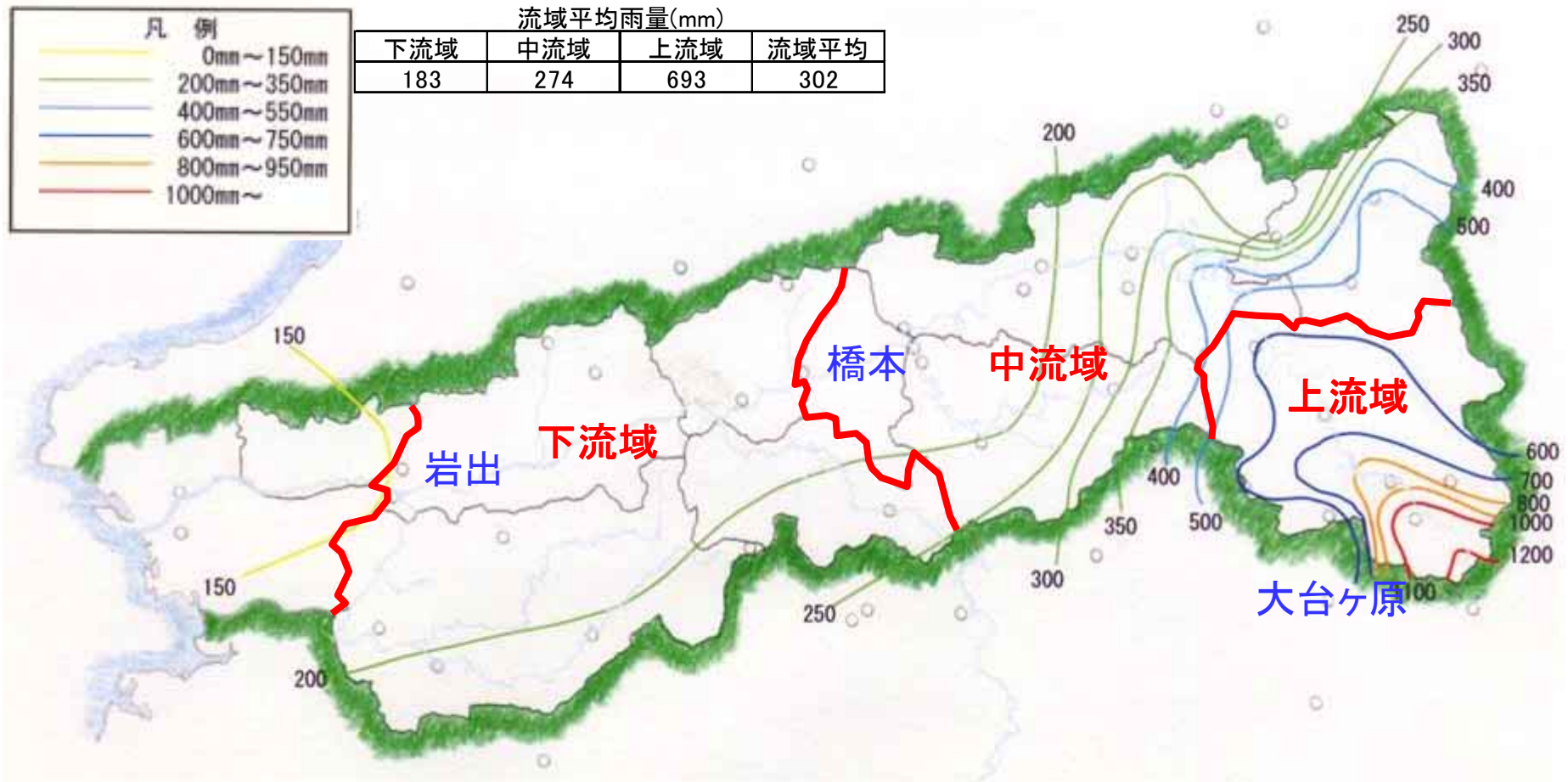
**●船戸地点**  
**雨量: 223mm**  
**流量: 3,430m<sup>3</sup>/s**  
**0.35m/h**

# 等雨量線図(2日雨量)

<昭和36年10月 前線>

上流多雨型の台風であり、大台ヶ原で1,217mmを記録。

一方、中流の橋本で170mm程度、下流の岩出では150mm程度でした。





# 等雨量線図(2日雨量)

<昭和40年9月 台風24号>

上流多雨であり、大台ヶ原で470mmを記録。

中流の橋本で180mm程度、下流の岩出では170mm程度でした。





# 等雨量線図(2日雨量)

<昭和47年9月 台風20号>

上流の日出岳で230mm程度、中流の高野で250mm程度、下流の岩出で120mm程度でした。

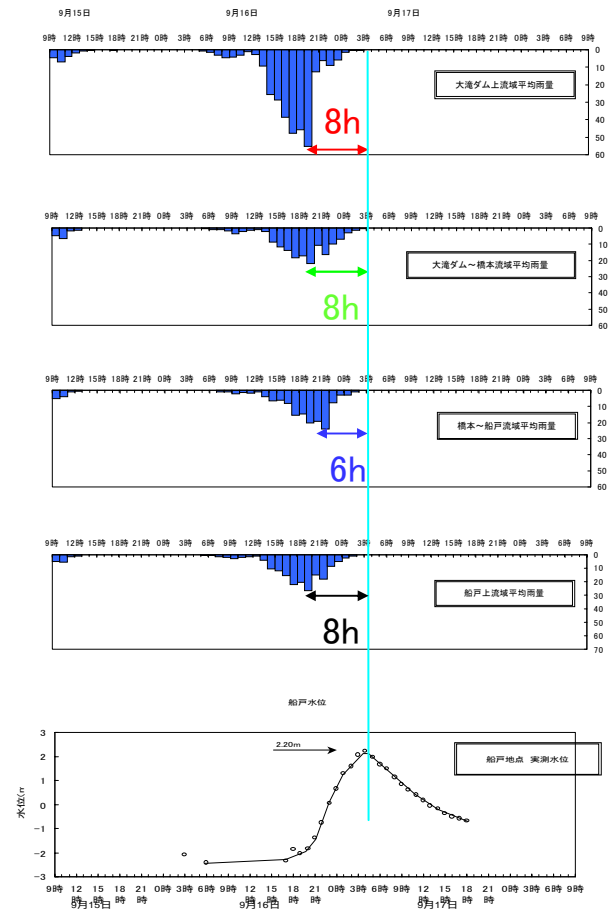
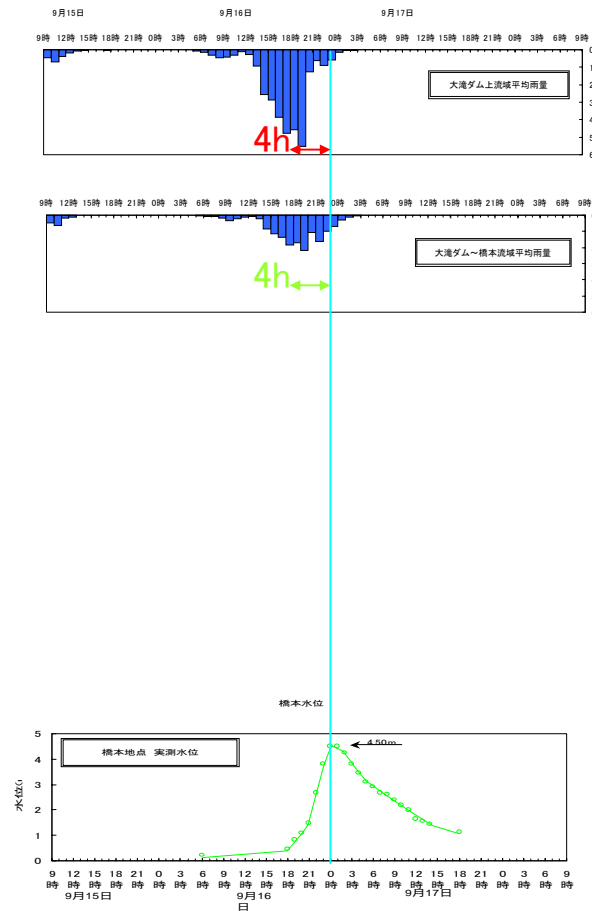
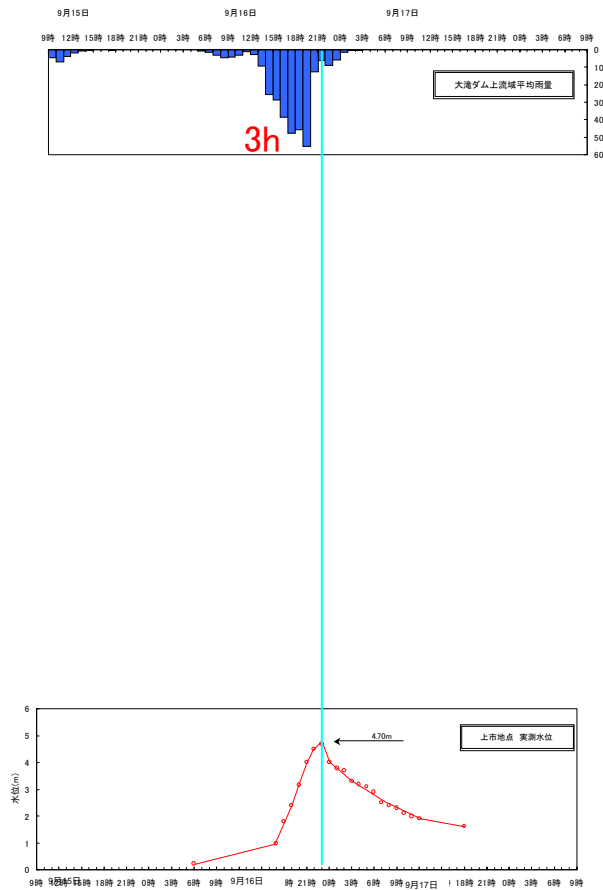


# 昭和47年9月の hidro ハイエトの推移

▼上流部

▼中流部

▼下流部



ピーク水位  
時間差

1h

4h

船戸地点の水位の上昇は、中上流の雨の影響によるものと考えられます。

●船戸地点  
雨量: 186mm  
流量: 5,780m<sup>3</sup>/s  
0.51m/h

# 等雨量線図(2日雨量)

＜昭和50年8月 台風6号＞

上流多雨型であり、大台ヶ原及び日出岳で600～700mm程度、  
中下流の橋本～岩出では100～200mm程度でした。



# 等雨量線図(2日雨量)

＜昭和57年8月 台風10号くずれ低気圧＞

上流多雨型であり、大台ヶ原で943mmを記録。





# 等雨量線図(2日雨量)

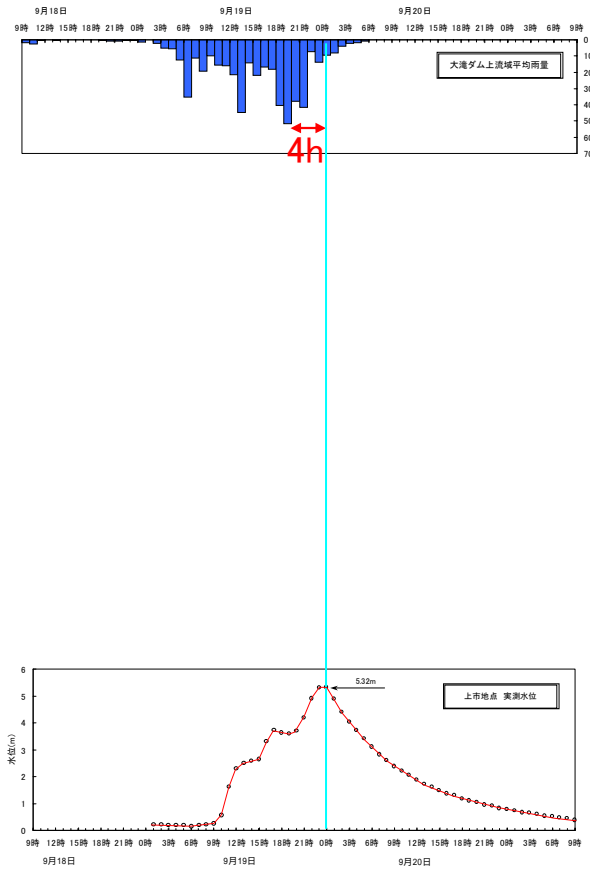
<平成2年9月 台風19号>

上流多雨型であり、大台ヶ原で809mmを記録。

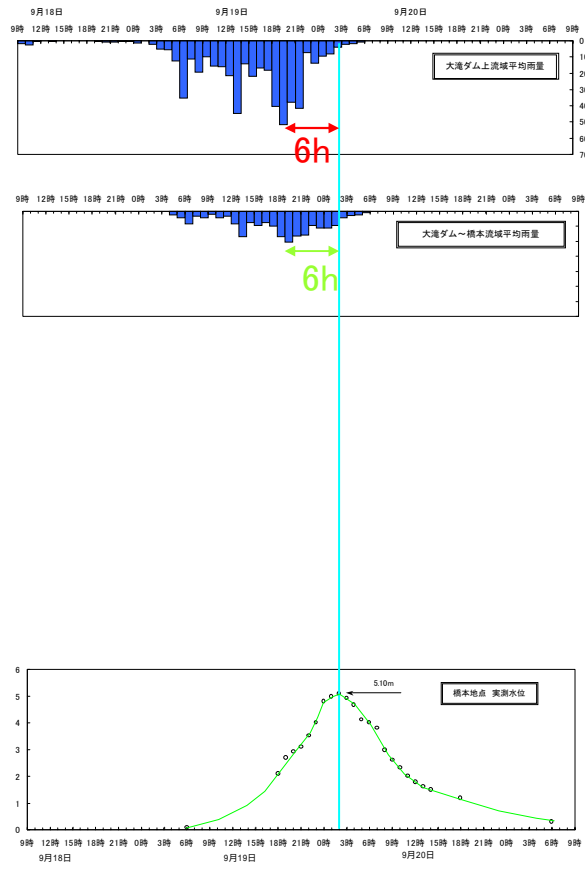


# 平成2年9月の hidrohaite no suihyō

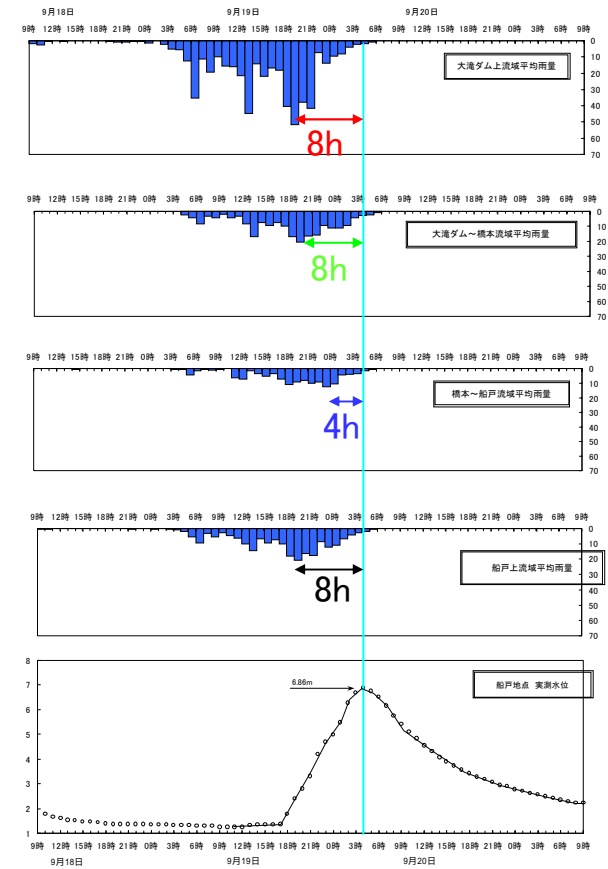
## 上流部



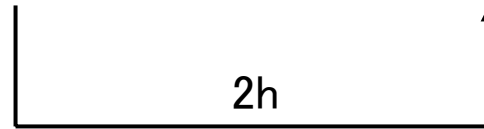
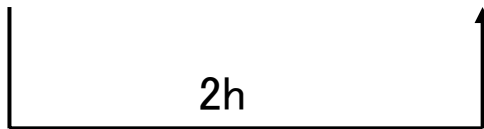
## 中流部



## 下流部



ピーク水位  
時間差



船戸地点の水位の上昇は、中上流の雨による影響と考えられます。

● 船戸地点  
雨量: 222mm  
流量: 6,420m<sup>3</sup>/s  
0.50m/h